

令和5年度 第1回生駒市行政改革推進委員会分科会① 会議録

開催日時 令和5年5月23日(火) 午前10時～午前12時

開催場所 生駒市コミュニティセンター 206会議室

出席者

(委員) 森会長、稲山委員、松山委員

(事務局) 知浦行政経営課長、島田行政経営課経営係長

(傍聴者) なし

欠席者 新子委員

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「後期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「後期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 担当課が作成した取組状況評価シートをもとに、各取組内容についての総合評価を決定していく。

No.1 事務事業の見直し

(会長) 行政内部できちんとチェックできる仕組みを構築できるよう指針を改定できたと感じているので、一定の成果が得られたという評価が妥当だと思う。

(委員) 今後は地域の力をますます必要になってくるため、市民を動かそうと思ったら、補助金は必要となるだろう。

(事務局) 今回は補助金を創設する際のルールを示したが、各担当課が絶えず効果を検証し、見直していくことが必要であると考えている。市民活動を活性化させるための一つの手段として補助金を活用することは必要であるが、無尽蔵に使えるものではないため、政策のバランスを考えながら財政課とも相談のうえ進めていきたい。

(会長) 自治会の加入率が下がっており、担い手も高齢化している。しかし調査をすると、若い世代は地域と関わりたいが関わり方が分からないという結果がでていと聞いた。

(委員) 個別での見直し実績はないが、指針が改定され、根本を変えることができたため、今後はそれに基づき事業の見直しを行うことができる。その点は一つの成果だと言えるだろう。

(会長) C評価でよろしいか。

(各委員) 了承

No.9 公共施設マネジメント推進計画に基づく公共施設の最適化

- (委 員) 廃止方針の施設を長寿命化や改修するという可能性はあるのか。
- (事務局) 廃止となっている施設の中には、老朽化が進行しており改修しなければ使用できない施設と、それほど老朽化が進行しておらず現状のまま使用できる施設がある。ただし、個別施設計画で廃止の方針の施設は、廃止に向けて進めていく予定である。
- (会 長) 廃止という方針の施設の中には、建替える施設もあるのか。
- (事務局) 老朽化した建物については、土地が生駒市のものであれば、民間活力を導入しながら建替えていきたいと考えている。例えば定期借地権を取って、民間に建設してもらい、一部を行政が借り入れるといった管理運営ができないかなど、財政負担を減らして建て替える手法を検討している段階である。
- (会 長) なぜ施設の再配置が進まないのか。
- (事務局) 施設利用者や地域住民の方と意見交換をしながら進めていきたいと考えているためである。また、一つの施設を変えるだけでなく、複合的に他の施設も含めて検討していくことを考えているため、調査に時間を要している。
- (会 長) 先日、宮崎県都城市の図書館に視察へ行った。公立図書館としての機能は有しながら、デパートとしての大切な記憶が残るよう改修がされている。また、年間 200 回イベントをするなど、多様な人がその空間に集まるような工夫がされている。
- (委 員) 生駒駅前周辺施設の再配置は、具体的にどこまで話が進んでいるのか。
- (事務局) 生駒駅を北と南にエリアを分けて、どのように再配置を進めていくかを考えている段階である。北側は子育てを中心としたエリア、南側は交流やビジネスのエリアというコンセプトを組んでいこうという素案は出来ている。また、セイセイビルの 1 階スペースも市民の方やビジネスの場として交流できるスペースとして活用できないか考えている。
- (委 員) 話を聞いていると、まだ素案の段階で具体的な話にまで進んでいないように感じる。
- (会 長) 確かにこの状況では C 評価はつけにくい。D 評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 10 公園灯の LED 化

- (会 長) 電気料金はだいぶ下がっている印象を受ける。
- (事務局) だいぶ下がっている。しかし、現状 LED の照明器具が高騰しており、令和 5 年度に予定どおり 80 基交換できるかは難しいところである。
- (委 員) あと何基残っているのか。
- (事務局) 約半分が残っている。
- (委 員) もっと生駒市が積極的に取り組んでいることをアピールして良い取組である。
- (会 長) B 評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 11 市ホームページの質の向上

- (委 員) 全部で何ページあるのか。
- (事務局) 担当課に確認しておく。

- (委 員) 不要なページと問題のあるページは何が違うのか。
- (事務局) 不要なページは、例えばイベントの情報が載っているページについて、イベントが終了しているのに残っているといた場合が該当する。問題のあるページとは、例えば①や3/4、(月)という書き方をすると、目の不自由な方に対してHPを読み上げるサービスがあるが、そういった場合に読めない。そういったページが問題のあるページに該当する。
- (委 員) 財政課のページには、予算や決算など古い年度のものもあり、かなりのページがあるように感じる。
- (事務局) 議会や財政などの重要な情報については、古い情報も残しておく必要があると考えている。
- (委 員) 市民が見て分かる情報であれば載せる意味があるが、財政の情報は難しくあまり閲覧もされないだろう。
- (委 員) 古い情報をずっと残し続けると不都合が生じるのか。
- (事務局) サーバーには容量があるので、古い情報を削除せず残しつづけていると、容量を超えてしまう。
- (会 長) C評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 12 多様なツールで情報発信

- (委 員) 発信した情報がきちんと市民の方に伝わっているかという点、正直伝わっていないと思う。介護者家族の会の交流会に参加したが、参加者は全く情報を持っていない。困っているのであれば、行政へ相談すれば良いのだが、我慢して自分達でできる範囲で何とかしようと考えている。そのときに、広報紙にはたくさんの情報が載っているから、必ず自分に必要な情報が出てくるという話をした。必要な情報は自分で取りに行くか、それが難しければ地域の人に相談してもらう必要がある。
- (委 員) そのギャップが大きい気がする。発信するのは良いが、情報を発信しているということを、市民に分かってもらう取組もまた必要になるのではないかと。
- (委 員) 若い世代であれば、スマホを使って自分達で調べることが出来るが、高齢者はあまり調べない傾向がある。
- (委 員) 流入数は、トータルの数か。
- (事務局) そのとおりである。
- (委 員) 何人が利用しているかは分からないのか。
- (事務局) それは分からない。
- (委 員) 177,000 アクセスがあったとしても、実際は1万人しか見ていないかもしれない。マニアックな方が何回もアクセスする可能性もある。ただし、177,000 アクセスというのはかなり大きな数字ではある。
- (委 員) これだけのアクセス数があることからきちんと広報しているというが、実際はどれだけの人に情報が届いているかを知った上で、広報の仕方を考えた方が良い。
- (委 員) この取組自体は、高い評価をしたら良いと思う。

- (委員) どういったページへのアクセスが多いのか。
- (事務局) 昨年度はコロナのページへのアクセスが多い。アクセスが多いページをより見やすくするための工夫をしている。また、それぞれの SNS について、使っている年齢層が異なる。Facebook は 30～40 代の利用者が多く、Instagram は若い世代が多い。年齢層に合わせた情報を発信している。
- (委員) 教育委員会の発信している note は興味深い。学校の取組が分かりやすく発信されており、保護者は楽しめるのではないかな。
- (委員) どの SNS からの流入が多いのか。
- (事務局) Twitter が最も多い。
- (会長) 流入数は多いが、実際に何名の方が閲覧しているのかが分からないという点があるため、B 評価でよろしいかな。
- (各委員) 了承

No. 13 市民自治協議会の設立に向けた支援とともに、市民自治協議会や準備会の活動支援

- (会長) 実際に活動しているのは、高齢者ばかりという印象である。その中に若年者が入ってくることで、考え方が異なり面白いのだが。高齢者しか集まらないというところが生駒の弱さだと感じる。
- (会長) 若い世代でも本当は参加したいと考えている人は多いのだが。
- (委員) きっかけがないと難しい。
- (委員) 自治会や PTA などの担い手が減っているなか、新たな団体を立ち上げるのは難しいのではないかな。
- (委員) 補助金はどれくらい出るのか。
- (事務局) 上限 50 万円で、協議会は 10 分の 10 補助、準備会は 2 分の 1 補助である。
- (会長) 設立することは難しいが、地域のつながりを作ることがもっとも大事なことになるので、ワークショップを実施するだけでも良い取組である。評価としては、目標値に達していないため D 評価でよろしいかな。
- (各委員) 了承

No. 14 コーディネート機能の充実による活躍の場の提供

- (会長) コロナ前の数字にはまだ届いていない状況か。
- (事務局) コロナ前の令和元年度実績が 178 件であったため、まだ戻り切っていない。
- (会長) NPO 等の力を借りたい団体等がオーダーするというイメージか。
- (事務局) ららポートにいるコーディネーターが、団体と自治会等をつなぐ役割をしている。
- (会長) 良い取組である。無償なのか。
- (事務局) 団体によって異なる。
- (会長) コロナ後の伸びに期待する。C 評価でよろしいかな。
- (各委員) 了承

No. 15 総合型地域スポーツクラブの推進・支援

- (委員) 学校の部活動への参画について、先生が必ずしも全てのスポーツに精通している訳ではないため、こういうスポーツクラブで指導をお願いする形を採ることが出来れば有効だろう。
- (会長) 1つのスポーツクラブで1つの競技なのか。
- (事務局) 陸上やバスケット、テニスなど1つのスポーツクラブで様々な競技に取り組んでいる。総合型スポーツクラブは、自分達でお金を稼いでイベント等にかかる費用も出していかなければならない。担当課としても経営面のノウハウを教えるなどの取組みは行っているが、長期的に運営していくことができる団体を作っていかなければならないため、3クラブ立ち上げるだけでも相当のエネルギーが必要だったと聞いている。
- (委員) 減りつつあるスポーツ人口を維持し、発展させるためには、総合型スポーツクラブは必要なので、担い手になってくれる方をもっと増やしていかないといけないと思う。
- (事務局) アイスホッケー等のマイナースポーツのイベントや教室等も開催し、会員数を増やす取組をしている。様々な体験を子どもにさせてあげたいという保護者のニーズに対応するため、そのような取組をしている。
- (委員) 生駒小学校の運営協議会に総合型地域スポーツクラブの方が入ってくれており、遊び方などについての知恵を出してくれている。
- (委員) 学校の部活動をスポーツクラブに委託できれば、経営面でも安定するのではないか。
- (会長) B評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 16 民間事業者等との協創の活性化に向けた対話窓口の設置

- (委員) どういったものが事業化されたのか。
- (事務局) メルカリからの提案として、リユースの推進を目的としたメルカリ教室を開催し、実際に参加者の方が自宅から出品する物を持参し、出品するまでの流れを教えるという講座を実施された。また、東リ株式会社が生駒南第二小学校に昨年度から新たに開設された適応指導教室に対して、床材を無償で提供してくださり、その汚れや傷み具合をモニターするという取組もされている。
- (委員) そもそも目標値が低いのではないか。
- (事務局) 目標値を修正することは不可能であるため、来年度評価する際は、前年度との比較で評価いただきたい。
- (会長) 今年度はA評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 17 市民参画と協働のまちづくりの推進

- (委員) 件数はどのように算出しているのか。
- (事務局) 毎年度地域コミュニティ推進課から全庁的に照会がある。
- (委員) そうであれば、毎年度同様の取組みが挙げられているということか。

- (事務局) 同じ取組も含まれている。
- (会 長) イコマニアも含まれるのか。
- (事務局) イコマニアも参画と協働の 1 つの事業として含まれている。イコマニアに登録されたイベント数は 274 件である。
- (会 長) 274 件は多い。目標には達していないため D 評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 18 本を通じたコミュニティづくり、市民との協働事業の実施

- (会 長) 実績値だけみると B 評価だが、質を加味し A 評価としているということか。
- (事務局) その通りである。
- (委 員) 幅広く取り組まれていると感じる。図書館に来られない方に対し、出張サービスも実施しているし、幼稚園等での読み聞かせもされている。
- (事務局) 今まではサービスを受けるだけの図書館であったが、市民の方も運営に関わってもらっている。
- (会 長) 市民が図書館を利用して何かするという事は聞いたことがあるが、市民が図書館サービスの担い手になるという取組までしている自治体は聞いたことがない。
- (委 員) 実績値の 14 件は既存の団体も含まれるのか。
- (事務局) その通りである。
- (委 員) それであれば、来年度も同じ実績値が出てきたら高い成果が得られたとは言えないのではないか。今後どうしていくのか。団体数を増やしていくのか。
- (事務局) 担当課としては、個人として活動しているボランティアを団体として組織化する取組をしている。
- (会 長) A 評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 19 新たな市民活動の創出と活動支援

- (会 長) 今年度に「BASE 生駒」を立ち上げたのか。
- (事務局) はい。生駒には、技能や技術を持った方がたくさんいらっしゃるので、そういった方が何か活動するための仲間をつくる場を提供している。
- (会 長) B 評価でよろしいか。
- (各委員) 了承

No. 20 情報発信と交流促進による都市イメージの形成

- (会 長) なぜこれほど閲覧数が多いのか。
- (事務局) 発信頻度が多いという点が閲覧数に繋がっていると考えられる。新聞やメディアで紹介されることも増えた。また、いこまち宣伝部の数がどんどん増えてきて、活動が終わった後も、SNS で発信し続けているため、生駒のファンが増えているのだと思う。
- (会 長) 市民との協働が効果を上げているということか。

(事務局) 市民の方が取材に行くので、お店の方も話しやすいと感じるのだろう。そういった情報を頻繁に発信することで閲覧数が増えているのではないか。

(会 長) 行政とは違った目線で発信できるのだろう。A評価でよろしいか。

(各委員) 了承

3 その他

次回の会議は、6月26日(月)午後2時から開催する。